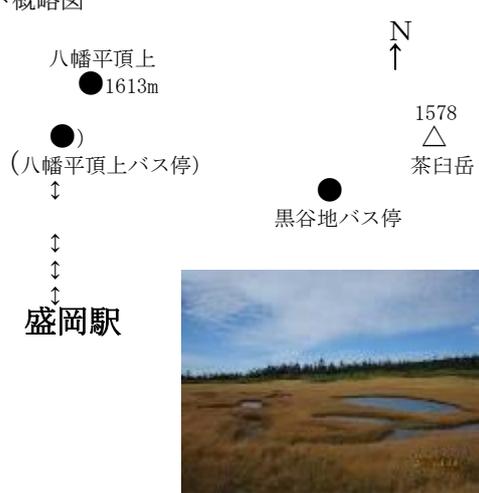


# 山行報告書

京都田辺山友会

報告者 山下隆

山名	八幡平	山行名	青森県の山
ルート	東京→JR盛岡駅→八幡平→JR盛岡駅→新青森		
山行日	2015.10.1(木)	天候	快晴
参加者	リーダー：山下隆      サブリーダー：園上雅晴 男性：上田昌宏 女性：大谷典子、長野雅子 合計：5名		

ルート概略図	コースタイム					
	地名	時：分	地名	時：分		
ルート概略図 	東京	集	頂上バス停 (大きな休憩所)	着	14:06	
	9月30日	発		発	14:50	
	盛岡	着	6:35	盛岡駅	着	16:50
	10月1日	発	9:10		発	17:37
	黒谷地バス停	着	11:15	新青森	着	18:43
		発	11:21		発	
	ビューポイント	着	12:15	宿	着	19:00
		発	12:40		発	
	八幡平頂上	着	13:30		着	
		発	13:40		発	

山行報告 参加者それぞれの都合もあり、東京駅八重洲南口に夜行バスの出発の約1時間前に集合した。何年ぶりかの南口はすっかり改造され立派なバスステーションになっていた。参加者全員集合出来た時はホットする。盛岡駅では待ち時間はたっぷりあり、余分な荷物はロッカーに預け、体調を整える。今日から始まった「八幡平自然観察バス」は我らの貸切の如くで、地元出身の運転手さんは顔に似あわず朗らかな方で、方言で地元の案内をしていただいた。理解できたのは秋田出身のOさんだけで、他の4人はなんとなく解るも、それが又旅情を掻き立ててくれた。当初、茶臼岳から頂上駅まで約8kmを歩く予定だったが、のんびり楽しもうとのことで、手前の黒谷地バス停で降り、池塘やオオシラビソの景観、草紅葉、沼、池をゆるりと散策を楽しむ。尾瀬とそっくりな感じだ。53-4年振りの八幡平でオオシラビソの木々の記憶が戻って来た。ビューポイントでの昼食では盛岡駅で仕入れたリンゴを皮ごとかじりながらの贅沢をし、京都からはるばる来て、ここにいることの幸せを感じたひと時だった。バスの運転手さんの話では、35年間の運転手経験の中で今日が一番の快晴とのこと。鳥海山や白山まで遠望できた。青森登山の初日は200%満足でき、好調なスタートとなった。盛岡駅から新幹線で新青森駅に着く。駅前はまだ未開発で、チャントした宿泊施設らしき建物は無い。自動車2台通れるような広い歩道の夜道を歩き、「青森健康ランド」で風呂・食事。簡易ベッドで熟睡し、夜行バスと八幡平の疲れを取った。好天の後は荒天になるとの伝えがあるようで、予報では爆弾低気圧が明日からやってくるので八甲田での天気が心配だ！明日の朝、後続組と青森で合流し、八甲田に登る予定。

ヒヤリハット； ありません

## 憧れの八幡平

大谷 典子

八幡平はおらが秋田の山だと思っていたのに、岩手にも足をかけていたとは今頃気づきました。岩手駅から観光バスは、10月1日本年初運行。八幡平散策とかけてあった。貸し切りかなと思ったら、数人の乗客が増えてちょっと賑やかになった。運転手さんがマイクのテストを始めた。あれ、聞いたことのあるズーズー弁だ。秋田生まれの私には一番のおもてなし。ズーズー弁を聞いてると、秋田に帰ったみたいだ。岩手弁と秋田弁のちゃんぽんで会話が弾む。ぐっと距離が縮まった。テスト失敗で、マイクを持たずに岩手弁の地声での運転手ガイドで発車。器用に運転とガイドをこなしてくれる。山崎さんありがとう。こんなところで訛りを聞けるとはラッキー。岩手弁は秋田弁とそんなに違いがなくて、私には全部理解できるし訛りを聞いていると気持ちまでほっこりする。ビュウポイントをなまりの強い言葉で説明してくれるのはいいが、皆さん最初は蛍光灯くらいの理解度だった。しまいにはちゃんとわかったらしい。地方の文化風土で育てられた独特の言葉。今の若い子達は秋田弁なんて使えないらしい。いつまでも残って欲しい方言、なんて思っているうちになんとなく見たことのある山。やっぱり岩手山。カメラを構えて、あっちこっちと自由に移動する。木の間越しに岩手山がちらちらするが、登って行くごとに、岩手山の格好も変わる。それにしても裾野の大きい山だ。右前方に、頂上のツンととがった山が見えてきた。姫神山といって、岩手県民には岩手山とは女性と男性の対をなす山として親しまれているそうだ。「まあ今流でいえばだ」とぶつぶつ言っていた山崎ドライバーさん。山下さんは50年前、学生時代に訪れた山で、どうしてももう一度登ってみたいと、私と長野さん、園上さんは百名山を目指しての八幡平。お天気がよくなって、願いがかなった。紅葉の色も輝きを増して、思わず歓声が上がります。中腹辺りの有名な藤七温泉を通過。あちこちで湯気が上がっている。運転手さん興味津々で、露天風呂辺りを見やっている。帰りには、私の目にも裸の湯治客さんが見えた。失敬。頂上からは、びっくり仰天。鳥海山と、月山が美しい姿を見せての大歓迎。30年登ってきているが、この山が見えたのは、今が初めてとの、ドライバーさんの声。長野さんが「鳥海山がこんなにきれいに見えると、嵐がやってくる。」翌日からやっぱり悪天候の連続だった。八甲田山組にはすみませんでした。大展望をゆっくり鑑賞。名の知らぬ山がポコポコ折り重なって望める。岩手山はちょっと変わった形に見える。すぐ横には、頭の大きいぼっこりした、奄岳（もっこだけ）が見える。（縄で編んだ荷物運び用の道具。二人がかりで天秤棒を前と後ろで担ぐ。昔田舎の人がよく使っていたもっこに似ていることに由来する）記憶にとどまりました。八幡平での記念撮影。



黒谷地までバスで移動。黒谷地湿原は草紅葉も色を失い、茶色に変わったすげの穂が静かに揺れていた。行き交う人もなく、聞こえるのは流れる水音だけ。静寂に包まれた池に映る青い空の色が、一層寂しさを漂わせていた。少しだけ登って、道端に一列に並んで昼食。こんなに幸せで、ゆったりした時間を過ごせるなんてずいぶん久しぶり。背中でナナカマドの実が揺れていた。老いてこそ遊べの遠藤周作さんではないが、気持ちが穏やかになって、家に帰った時にはストレス性の頭痛も消えていた。頂上まで登ると八幡沼の見える展望台に到着。急ぐ人もない旅人ばかりの中に私達も仲間入り。記念撮影。気に入る形の雲を狙って写真機を構えていた方が、わざわざ三脚をたたんでシャッターをおしてくださった。沢山の沼を見ながら鏡沼までやってきた。さざ波を立てていた湖面はきらきら光って、景色を映してくれはしなかったがきれいだった。どこへ行っても静けさに包まれて、心が洗われる。こうしていると日頃の忙しい忙しいのストレス病が消えていくのがわかる。希な景色を見せてくれた八幡平は最高の旅だった。

山下さん、ややこしい私の希望を聞いてくださり、キャンセルやらでご迷惑おかけしてすみませんでした。おかげで秋田の姉にも出会え、生まれた家の最後も見届けられたし、本当にありがとうございました。

# 山行報告書

京都田辺山友会

報告者 染矢つや子

山名	八甲田山	山行名	東北例会（3座の1）
ルート	酸ヶ湯温泉登山口～地獄湯の沢～仙人岱避難小屋手前 撤退 ピストン		
山行日	10月2日（金）	天候	晴れ時々曇り時々小雨
参加者	リーダー：染矢 サブリーダー：山下・園上 男性：梅澤・津田・上田（昌） 女性：大谷・長野・上田（秀）・上田（美）・河合 合計： 11名		

ルート概略図 	コースタイム				
	地名	時：分	地名	時：分	
青森駅 (JRバス)	着		星の宿 白鳥座	着	15:00
	発	7:50		発	
酸ヶ湯温泉	着	8:56		着	
	発	9:30		発	
大岳手前	着	11:00		着	
	発	11:05		発	
途中 長休憩	着			着	
	発			発	
酸ヶ湯温泉 (貸切バス)	着	12:45		着	
	発	13:40		発	

## 山行報告

男2女4名、京都→東京は新幹線。上野発青森行きの夜行バスはガラガラで横になる事が出来た。予定より早く到着、晴れてはいるが風が強い。八幡平組に電話。朝食・身支度・トイレ・食糧調達。ほどなく全員揃う。昨日は晴れでルンルンの八幡平組はホル70代イケイケ状態。時折風が強く吹くが行ける所まで行く事に。予定通りバスに乗る。途中の萱野茶屋でトイレ休憩・暖かいそば茶を頂く。酸ヶ湯温泉宿で女性職員に荷物の一時預かりをお願いしたがNG。何処かないかウロウロしている間にY氏が男性支配人に交渉し荷物を預ける事が出来た。交渉の上手さには脱帽。帰りにお礼にと温泉饅頭購入。

登山開始 他のパーティーも登って行った。薬師神社鳥居を左に見て登山道に入る。暫く進むと左に樹木のない広場を目にする、ある日突然火山性のガスが噴出して立ち枯れた場所、今も注意の看板がいくつも立っていて足早になった。次から次と下山してくる人、強風で避難小屋手前・沢にかかる橋の手前でリタイヤしてきたと・・・その時点ではまだ樹林帯の中なので強風の感覚はなかった。風を遮る木がなくなった地獄湯の沢手前で強風を体感する。不安な人は四つん這いで橋を渡る。ここからは岩が多く歩きづらくなる。避難小屋まで行きたかったが、これ以上進めばもっと風も強くなりこのメンバーでは危険と判断し、集合写真を撮って引き返す。登れなかった鬱憤は、たわわに実をつけたりんご畑。車窓から眺めたり、見ているだけでは・・・と自宅にリンゴを送ろうとJAあっぷるのハウスに立ち寄った。皮肉にも太陽が眩しい。早めについた宿の露天風呂から「岩木山」の全貌を堪能した。

## ヒヤリハット

沢の橋を渡ろうとして風にバランスを崩し滑り落ちそうに、3人が手を持ち引き上げる。怪我なし





青森県の山 八甲田山、岩木山、白神岳登山に参加して

上田秀子

今回 現地の天気は良くないらしいが八幡平へ行きたい人たちが先発しているのであまり気にしてもしょうがないんだなるようになるさと思いつながら行きました。

1日目は八甲田山 登山口の酸ヶ湯では風があるなと思って歩き出すと前日の雨で道はじゅるじゅる石はゴロゴロして歩きにくい山でした。途中で会った人は風が強くて引き返したとの事、私たちも大岳まであと1.7キロという地点で強風のため引き返しました。紅葉はもうちょっとでしたがナカマドの赤い実が印象的でした。



2日目の岩木山は朝から雨で風も強く予定していたコースはロングコースなのでドライブウェイで8合目まで上がるショートコースを選びましたがやはり頂上直前で強風の為断念し引き返しました。登山口には早く戻ったため白神山地の散策に行こうとビジターセンターに行くとブナ林のみその他は皆通行禁止 最近雨が多く山は荒れてるんですね。昼食の後大きなブナの木を見ながら手つかずの林を雨が降ってなきやいいのと思いつて歩きました。

3日目の白神岳は朝は雨が上がっていて頂上まで行けるよう期待しつつ登山口へ。道は比較的なだらかでしたが所々荒れていました。途中日本海を望み岩木山もうっすらと見え頂上では四方を見渡し満足。今回の山ではただ一つ頂上を極めました。白神岳は百名山ではなかった。でも良かったのは宿の食事・不老不死のお湯素晴らし旅行でした。

企画・バスの手配など準備してくださった方々本当にありがとうございました。

## 1. 一期一会

梅澤宗平

白神岳の9合目付近で右手にすばらしい景色が広がる。すぐ前方には黒色の白神山地、その向こうは白っぽく見える秋田の山と日本海が広がる。晴れた日には鳥海山が見える事は容易に想像できた。今日一番のポイントである。が写真を撮らなかつた。もうすぐ十二湖コースとの合流である。なにより頂上に続くなだらかな尾根にでる。もっといい写真が撮れる筈である。また帰りもここを通る。そうして1枚の写真も撮らずに通り返した。その後、合流点は灌木とクマザサに覆われて何も見えない。頂上に至る尾根もクマザサと山頂に邪魔されて向こうが見えない。頂上の写真も平凡な山並みしか撮れなかつた。ほどなく降ってきた雨と霧で何も見えなくなった。

## 2. 体幹トレーニング

職場のトレーニングルームで2,3分あるが体幹トレーニング(主としてプランク)を始めて2ヶ月になる。詳しい事は知らないが「当たり」に強くなるらしい。最近入社した足の速い奴(マラソンを2時間28分で走る)もやっているではないか! そのおかげか青森の山では強風に飛ばされる事はなかつた。

## 3. バス車内泊

生まれて初めて経験した。思ったより快適であった。これから時間は捨てるほどできる。長距離バスは有力な移動手段の一つとなった。

## 4. 青森県の山

2004年6月に青森を旅行した。八甲田山、奥入瀬、十二湖をレンタカーで回った。今回染矢さんの企画で再び訪れることができた。残念ながら八甲田山と岩木山には頂上まで到達できなかったが満足しています。

